

淡路夢舞台

Awaji Yumebutai

所在地 / 兵庫県津名郡東浦町夢舞台

建築主 / 兵庫県

株式会社 夢舞台

設計者 / 安藤忠雄建築研究所

施工者 / 株式会社 竹中工務店

株式会社 大林組

清水建設株式会社

株式会社 森長組

株式会社 新井組

淡路土建株式会社

株式会社 青木建設

株式会社 銭高組

佐藤工業株式会社

株式会社 神崎組

株式会社 柴田工務店

株式会社 出雲建設

竣工 / 1999年12月

Location / Higashiura-cho, Tsuna-gun, Hyogo Prefecture

Owners / Hyogo Prefecture

Yumebutai Co.,Ltd.

Architect / Tadao Ando Architect & Associates

Contractors / Takenaka Corporation

Obayashi Corporation

Shimizu Corporation

Moricho Corporation

Arai-gumi Ltd.

Awaji-doken Co.,Ltd.

Aoki Corporation

The Zenitaka Corporation

Sato Kogyo Co.,Ltd.

Kanzaki Gumi Construction Co.,Ltd.

Shibata Corporation

Izumo Corporation

Completion Date / Dec.,1999

右頁：100区画の花壇で構成される百段苑 facing page: Hyakudan-en Gardens above the buildings.



ホテルより北側を見通す 手前は海の教会 Downward view from the hotel.





最高高さ約11mの石壁に囲まれた直径約32mの円形フォーラム Circular forum surrounding stone with a diameter of 32 meters and 11 meters high.



長径約50m高さ約17mの石壁に囲まれた楕円フォーラム Oval forum.



山回廊 Hillside gallery.



温室内部 Greenhouse.



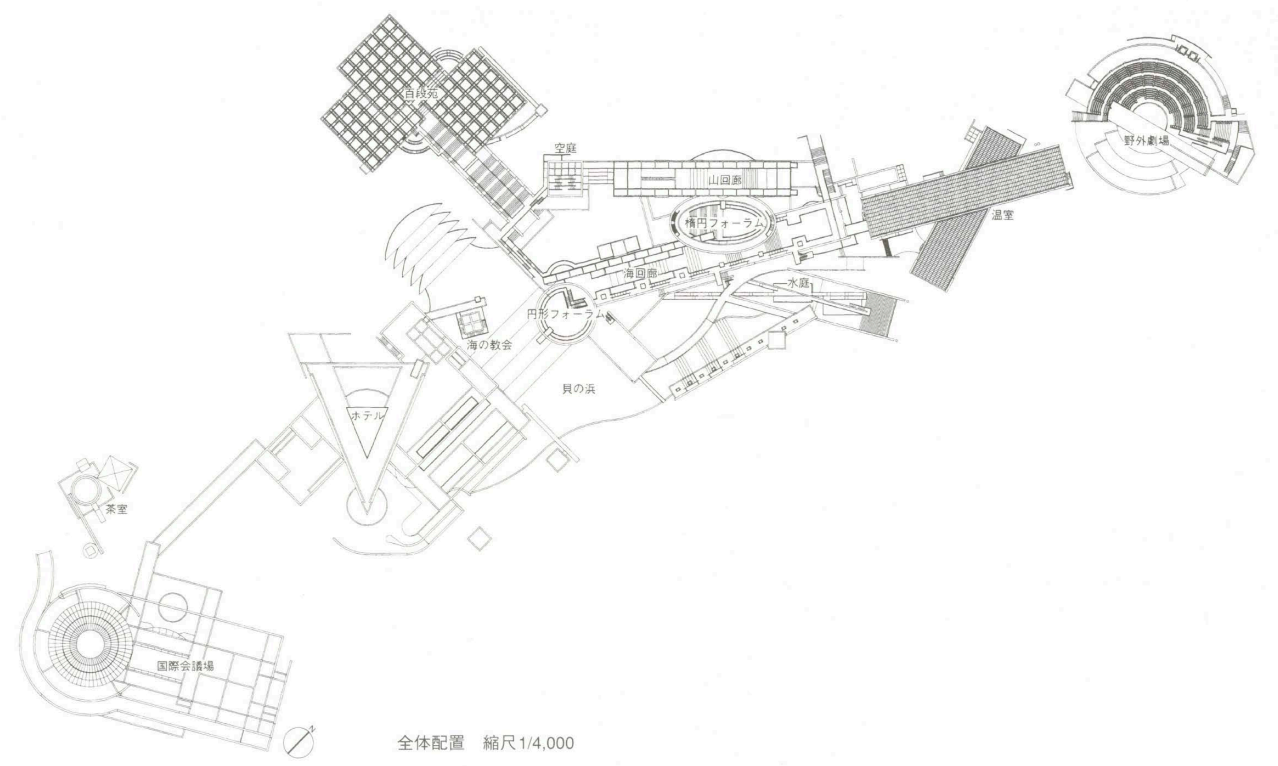
国際会議場 International conference center.



貝の浜 ホタテ貝の貝殻約100万枚が敷き詰められている Water Plaza of the Shells.



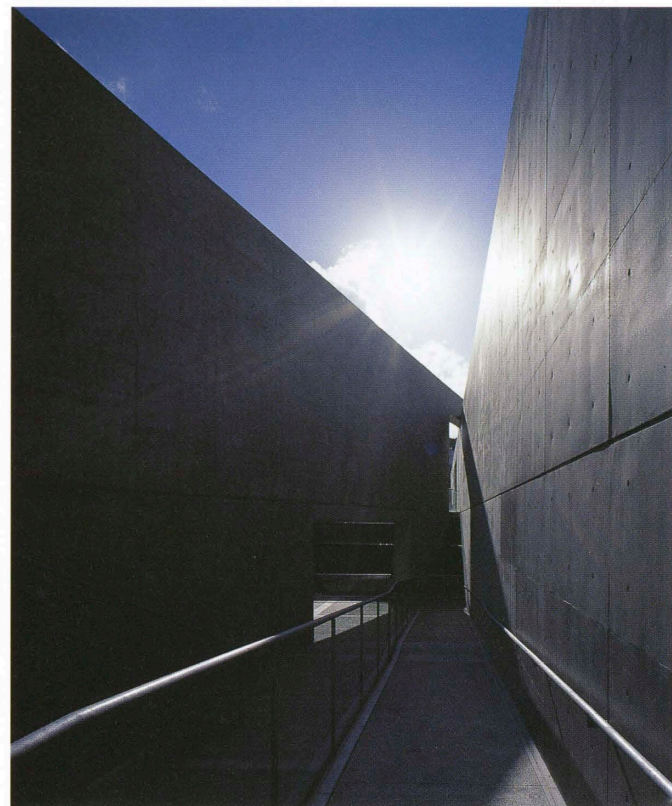
茶室 広間と小間をつなぐ円形回廊 Tea ceremony room.



全体配置 縮尺 1/4,000



空庭から大阪湾を望む View of Osaka bay from the sky garden.



水庭のスロープ Water garden.

建築概要

敷地面積 213,930.00㎡
建築面積 38,429.14㎡
延床面積 95,078.04㎡
施工期間 1997年7月～1999年12月

◆国際会議場棟

構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 鉄筋コンクリート造 鉄骨造 木造(茶室)
階数 地下1階 地上4階

仕上げ概要

外部仕上げ
屋根/アスファルト防水シンダーコンクリートの上
軽量客土植栽 本瓦葺き(淡路産いぶし銀) 外壁/白御影石 t=80mm 削肌 化粧型枠コンクリート
打放しフッ素樹脂塗装

内部仕上げ

[メインホール] 床/カーペット t=9mm (フリーアクセスフロア) 壁/ナラ練付合板 t=18mm PB t=12.5mm EP 天井/岩綿吸音板 t=19mm [エントランスホール] 床/大理石(グリーンマーブル) t=25mm ビーズショット加工 壁/化粧型枠コンクリート打放し 天井/岩綿吸音板 t=19mm [イベントホール] 床/タイルカーペット t=6mm (フリーアクセスフロア) 壁/ナラ練付合板 t=18mm PB t=12.5mm EP 天井/岩綿吸音板 t=19mm [茶室] 床/畳 壁/漆喰塗 天井/スギ練付合板 t=9.5mm

設備概要

空調 オイル焚温水発生器 空冷ヒートポンプチラー 空冷ヒートポンプPAC
衛生 加圧送水方式
電気 ホテル特高2回線受電より 分岐サブ電気室にて受電2,500kVA
防災 スプリンクラー設備 炭酸ガス消火設備 水景設備

◆ホテル棟

構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
階数 地下2階 地上10階 塔屋1階

仕上げ概要

外部仕上げ

屋根/アスファルト防水シンダーコンクリートの上
軽量客土植栽 外壁/せっ器質タイル150×300mm
化粧型枠コンクリート打放しフッ素樹脂塗装

内部仕上げ

[チャペル] 床/白御影石 t=25mm 壁・天井/化粧型枠コンクリート打放し

設備概要

空調 蒸気吸収式冷凍機900RT 油焚炉筒煙管ボイラー9TN 熱回収空冷ヒートポンプチラー120RT
衛生 上水受水槽230m³ 中水受水槽260m³ 給水加圧+高架水槽方式

電気 特高2回線受電8,000kVA

サブ電気室6,300kVA

防災 スプリンクラー設備 炭酸ガス消火設備 水景設備

◆展望テラス・レストラン棟

構造 鉄筋コンクリート造

階数 地下2階 地上5階

仕上げ概要

外部仕上げ
屋根/アスファルト防水シンダーコンクリートの上
押出成形セメント板 t=50mm 敷込み 外壁/化粧型枠コンクリート打放しフッ素樹脂塗装 白御影石 t=80mm

内部仕上げ

[店舗前広場等] 床/豆砂利洗出し 壁/化粧型枠コンクリート打放しフッ素樹脂塗装 白御影石 t=80mm 天井/PB t=12.5mm 寒冷紗パテシゴキEP [コ罗纳ード等] 床/豆砂利洗出し 壁/化粧型枠コンクリート打放しフッ素樹脂塗装 溶融亜鉛メッキスチールサッシュ スリガラスFix 天井/化粧型枠コンクリート打放し

設備概要

空調 空冷ヒートポンプパッケージ

衛生 加圧送水方式

電気 ホテル特高2回線受電より 分岐サブ電気室にて受電4,150kVA

防災 スプリンクラー設備 炭酸ガス消火設備 水景設備

◆温室棟

構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 鉄筋コンクリート造

階数 地上3階

仕上げ概要

外部仕上げ
屋根/トップライト: アルミフレーム網入り磨きガラス t=10.8mm その他: アスファルト防水の上
砕石敷 t=50mm 外壁/アルミサッシュ フロートガラス t=8mm 化粧型枠コンクリート打放しフッ素樹脂塗装

内部仕上げ

[エントランスホール] 床/豆砂利洗出し 壁/化粧型枠コンクリート打放し 天井/PB t=12.5mm 寒冷紗パテシゴキEP [温室(展示室)] 床/スロープ・階段等: 豆砂利洗出し [温室(特別展示室)] 壁/化粧型枠コンクリート打放し 天井/珪酸カルシウム板 t=6mm VP

設備概要

空調 灯油焚吸収式冷温気発生機 パネルヒーター用温水ボイラー 空冷ヒートポンプエアコン

衛生 加圧送水方式

電気 電気室キュービクル方式

防災 スプリンクラー設備 イナーゼンガス消火設備

◆屋外劇場棟

構造 鉄筋コンクリート造

階数 地上1階

仕上げ概要

外部仕上げ
屋根/塗布防水の上シンダーコンクリート 外壁/化粧型枠コンクリート打放しフッ素樹脂塗装 外構/通路・階段・ステージ等: 豆砂利洗出し 座席: PCコンクリート 池底: 白玉石埋込み

階数 地下2階 地上3階

設備概要

空調 ルームエアコン

衛生 加圧送水方式

電気 温室より分岐サブ電気室にて受電低圧(200V・100V)

防災 室内消火栓

選評

Review

古谷誠章 Nobuaki Furuya
宮本忠長 Tadanaga Miyamoto
横沢国夫 Kunio Yokozawa

広大な海と緑に囲まれた環境再創造の一大プロジェクト。大阪湾ベイエリア構想の核施設でもある関西国際空港の埋め立て工事に際し、土砂採取場として140haにわたって切り取られた自然の回復を目的とした、人びとの手による「智」と「技」の完全燃焼が、夢舞台のすべてではないだろうか。

美しい自然林の繁みや里山の植生が完全に根付いた今日、見事に回復された環境の形容は、企画者、設計者、施工者からなる三位一体の結晶である。その回復・創造への熱情にわれわれは畏敬の念を禁じ得ない。

ひとことに自然回復といっても、人びとが集まり、人と人とが交わることでこそ、豊かな自然を護り続けることができる。このためにも核施設としての建築群の役割は大きい。

これらの建築群は、自然の形相に合わせ、時には丘陵の背に並行し、時に可能な限り自然の風景に埋没するがごとく存在する。ホテル棟を中心に左には国際会議場が、右には回廊、フォーラム、温室、野外劇場が流れるがごとく結ばれている。ここでわれわれはゆっくりと淡路の海を眺め、明石の風を肌で受け、見事に回復した自然の緑影を楽しむことができる。特に建築群の上部の百段苑、下階の貝の浜などでは、打放しコンクリートの無彩色と少しの「甘さ」もなく研ぎ澄まされ虚飾を廃した安定感のあるディテールによって、あたかもギリシャか古代ローマの遺跡のなかにいるような感覚を一瞬味わうことができる。何ものにも動じない目方が五感に響振するかのごとく、静かに押し寄せてくるのである。

時に迷路の中をさまようような不思議な楽しさを体験できるが、さらに注意深く見ると、職人ひとりひとりの技量が夢舞台の立て役者のように登場してくる。貝の浜、白玉砂利敷きの水庭、打放しコンクリートの打込み技術がそれである。

また、阪神・淡路大震災の尊い犠牲者の霊を鎮める百段苑は、人の命の偉大さ、尊厳さを永久に刻むものであり、次世代の人びとへのメッセージを景観の中に巧みに有形化することに成功している。

開発によって破壊された自然環境をいかに回復させるかという事は、今日、建築に求められるもっとも重要なテーマである。このテーマを成し遂げた淡路夢舞台の真意は、その有形とともに、必ずや次世代の人びとに伝承されることであろう。

This major project to regenerate the environment is surrounded by the sea and greenery. Awaji Yumebutai is a core facility of the Osaka Bay Area Concept. The fruit of many people's ideas and skills, it is intended to restore nature to a 140-hectare site that provided soil for the Kansai International Airport reclamation work.

The magnificently restored environment, where beautiful woods and native plants have taken root, is the product of close cooperation by the client, the architect and the builders. They set about the task of restoration and creation with great enthusiasm.

Restoring nature is also a matter of drawing people together and promoting communication between people so that a restored environment can be appreciated. That is an area in which the buildings in the project have played a large role.

These buildings are adapted to nature, at times standing in parallel to the ridge of a hill and at other times embedded as much as possible in the natural landscape. The hotel is situated in the middle. The international conference center to its right and the walkway, forum, greenhouse and open-air theater to its left are linked in a fluid, spatially continuous manner. Here, we gradually view the sea of Awaji, feel the breeze of Akashi and enjoy the greenery that has been magnificently restored. In particular, the Hyakudan-en Gardens above the buildings and the Water Plaza of the Shells at a lower stage of the project, with their achromatic exposed concrete and their restrained detailing, from which everything that might seem indulgent or ornamental has been stripped, evoke the ruins of Greece or ancient Rome. We feel ourselves to be in touch for a moment with eternity.

At times we experience the curious joy of wandering through a maze. At other times, if we observe closely, we can see displays of skill by the craftsmen who worked on Awaji Yumebutai, especially in the Water Plaza of the Shells, the water garden laid with white gravel and the exposed concrete everywhere.

The Hyakudan-en Gardens are dedicated to the victims of the Great Hanshin-Awaji Earthquake and bear witness to the greatness and dignity of human life. They succeed in bearing their message even as they blend in with the rest of the landscape.

The most important task confronting architecture today is restoring the natural environment that has been destroyed by development. Awaji Yumebutai has succeeded in that task, and it will no doubt have much to teach future generations.